

# 人権教育に関する特色ある実践事例

## 基準の観点

協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例

## 1. 基本情報

### ○都道府県名及び市町村名

秋田県仙北市

### ○学校名

仙北市立白岩小学校

### ○学校のURL

<http://www.city.semboku.akita.jp/sc-shirasyo/>

## 2. 学校紹介

### ○学級数

【通常学級】各学年1学級 【合計】6学級

### ○児童生徒数

【全校児童数】68人（平成25年11月20日現在）  
（内訳：1年生19人、2年生9人、3年生18人、4年生8人、5年生8人、6年生6人）

### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

#### 【学校の教育目標】

『夢にむかい かしこく 心ゆたかに たくましく』

～ 自分を作る喜びを知り希望と自信をもって歩もうとする子どもの育成～

#### 【人権教育のめざす子ども像】

「他との関わり合いの中で自らの心を育む子ども」

～ 仲間や地域の人々との関わり合いを大切にしながら ～

### ○人権教育にかかる取組の全体概要

#### ○互いのよさを認め合うことを通して「人権」意識の深化を図る教育活動

- ・「個人カード（私の夢カード）」の記録と掲示による個々の児童の意思表示とその思いの共有化

#### ○地域・家庭との連携の強化による児童の自己有用感の育成

- ・「ともそだち」の記録を通しての、個人と仲間及び個人と担任と保護者との関わり合いの設定
- ・多様な立場や年齢の方々との交流を図り、生き方を学び自らを育む活動

#### ○人権教育の充実を目指すための全校による指導体制の見直し

- ・全校児童を全教職員で育むための指導体制と職員間のネットワークの確立

### 3. 特色ある実践事例の内容

○はじめに

本校の「人権教育」が目指す基本的な児童の姿

◇低学年

- ・相手の顔を見てあいさつや返事をしようとする姿
- ・遊びのルールを共有して遊ぼうとする姿
- ・仲間のがんばりを探そうとする姿

◇中学年

- ・相手の思いを受け止めながら会話しようとする姿
- ・諸活動に積極的に関わろうとする姿
- ・仲間の良さを評価し尊重しながら生活しようとする姿

◇高学年

- ・共感的な態度で会話しようとする姿
- ・男女の持ち味を尊重し助け合おうとする姿
- ・長所も短所も認め合い、お互いによりよく生きようとする姿

本校では、年下の子とうまく関われない児童、自分の価値だけで押し切る児童、他者のよさや弱点を容認できない児童、自己を見つめられない児童等、他者とコミュニケーションを確立することを苦手とする児童が増加しつつある。

このような児童の実態に鑑み、人格形成の基盤となる「相互理解」と「自他の尊重」の精神を育むことを目指し、お互いの違いやよさを認め合い学び合い、自分と他者とを同じように大切に活動に取り組んできた。その際、児童が互いに育ち合う環境を整備するとともに、学校関係者以外の人々と触れ合う機会を可能な限り多く取り入れることを、活動の重点とした。

#### 1 互いのよさを認め合うことを通して「人権」意識の深化を図る活動

「他との関わり合いの中で自らの心を育む子供」という本校人権教育の目標に迫る具体的な手立てとして、全校児童を対象とする「私の夢カード」の掲示と「ともそだち」の記録を行った。

##### (1) 「私の夢カード」の掲示

カードには、児童の顔写真が貼付されており、視覚的に本人を確認できるようになっている。本人記入欄には、「今年目標」「がんばり目標」「将来やってみたいこと」「将来つきたい仕事」等を記入する。「がんばり目標」には、年間5回ある区切りの時期に常時活動を振り返り、達成されたこれまでの「がんばり目標」の上に新たな達成目標を重ねて貼付する。



<私の夢カード>

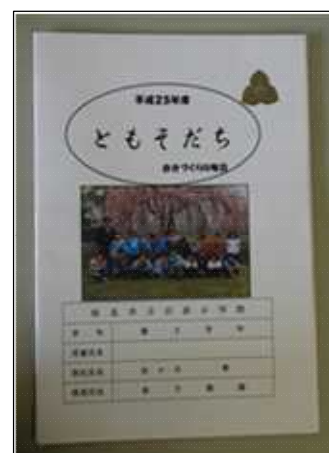
この活動は、自分の成長を視覚的に捉えることができるとともに、児童それ

それが自分の夢や課題を公表し自己アピールできる場にもなっている。これにより「仲間たちは、どんな夢をもっているのだろう」とか「今回はどんながんばり目標を立てたのだろう」というように、同学年はもとより、他学年の仲間の思いにも興味をもつようになってきた。

「私の夢カード」は掲示のみの活動ではなく、仲間が互いに意識し合い自分を育てていくためのカードであることを、児童はもとより教職員を含めた全校で確認している。「私の夢カード」は、学年の終了時に後述の「ともそだち」とともに児童へ渡され、一年間をどのような目標や思いで生きてきたのか、いつでも振り返られるように、自分の成長の足跡の記録として家庭で保管されている。

## (2) 「ともそだち」への記入

「私の夢カード」は「目標」が児童の手によって記入されるものである。この「私の夢カード」と対になるのが「ともそだち」であり、「私の夢カード」に示したがんばり目標について年間5回の振り返りを記録していくものである。「どんなことをがんばれたか、達成されたか」を記載する。つまり、自分のよさを探す活動となる。達成されなかったことについては、次の「がんばり目標」として「夢カード」に記入する。



「ともそだち」には、同じ学級の友達（1回に1～2人程度）からメッセージを書いてもらう。互いによいところやがんばりを認めたり、共感したり、励ましたり、やってもらってうれしかったことに感謝したりするものである。メッセージ記入者にとっては「他者のよさを認める」活動であり、記入された児童にとっては自己有用感を確立する活動である。「ともそだち」の活動は、自己を見つめる場だけでなく、関わり合う児童相互が「共に育つために必要な言葉がけができる場」となっている。

担任は、児童が相互に記入した全体を見て、対象児童が次の期間も意欲をもって生活できるように、励ましや認め言葉を記入する。児童の情意面での状況を把握し効果的に支援することに役立っている。また、長期休業中は自宅に持ち帰って保護者にも見てもらい、保護者からも励ましや認め言葉を書いてもらっている。

これらの活動により、全校児童に自分自身をじっくりと振り返る時間を保障するとともに、他者との関わり合いをも児童一人一人に確実に保障している。そこから得たエネルギーは、児童がこれからの自分づくりに生かしていくものとなる。児童は、クラスメートや担任に認められていることや家族の一員として認められていることを、以前より強く自覚できるようになっている。

さらに、それまで気付かなかった「他者のもつよさ」に気付いたり、「自分も他の人たちも同様に悩んだり不安になったりする」ということに気付いたりすることで、他者を共感的に考える意識が醸成されている。

## 2 地域・家庭との連携の強化による児童の自己有用感の育成

### (1) いろいろな立場や年齢の方々と交流を図り、生き方を学び自らを育む活動

本校では、人権教育のねらいに迫る手立てとして次の活動を行っている。

◇ふるさと学習や集会活動及びスポーツ交流や学習発表会への招待等を通じての地域住民との交流

◇養護老人ホームへの、器楽部や児童会の慰問及び学校園でとれたサツマイモのプレゼント等での交流

◇人権推進委員の皆さんとの、人権の花植えや「いじめ」について一緒に考え話し合うというような活動を通じた交流

◇薬剤師による、たばこやドラッグのもつ怖さとマナーについての講話

◇読み聞かせボランティアの皆さんとの、読み聞かせ・歌・手話・ピアノ演奏・英語活動等での交流

◇地元警察官や消防署員との、交通安全教室やAEDの使い方と人工呼吸の仕方の訓練及び施設訪問等で交流

◇保育園の園児を学習発表会に招待

◇中学校の生徒とはクリーンアップ活動やあいさつ運動で交流

◇東日本大震災被災地の訪問と被災地にある階上小学校との交流

◇全日本代表経験のあるアスリートとの交流による「夢の教室」事業



<親子での人工呼吸訓練>

### (2) 東日本大震災被災地の訪問と被災地にある階上小学校との交流

本校では、「被災地の様子をしっかりと目に焼き付けておくことが、日本人として是非とも必要なことである」というねらいから、平成25年7月17日(水)、4～6年生の児童が宮城県気仙沼市の被災地と気仙沼市立階上小学校を訪問した。

この活動は、以下の計画で進められた。

#### ①児童の実態調査

東日本大震災に対する児童の認識の程度の把握

#### ②災害に関わる内容の読書

読書の時間を利用しての「過去の災害と人々との関わり」や「この度の被災地の人々の様子に触れる」本を読む活動

#### ③「津波に関係する偉人」を扱った資料を基にした「道徳の時間」

過去の災害の記録と当時の人々の心情に触れ、これからの在り方を考える活動

#### ④仙台松島方面への6年生による修学旅行を通しての体験学習やインターネットによる東日本大震災の調査活動

⑤宮城県気仙沼市の被災地と気仙沼市立階上小学校の訪問

⑥学習発表会での体験発表

⑦学習発表会で発表したことの気仙沼市立階上小学校への報告

当初は、被災地の見学だけでもよいと考えていたが、気仙沼市教育委員会のアドバイスと協力により、被災地の見学以外にも、被災したドライブインの店主から被災現場で具体的なお話を伺う機会を得た。また、階上小学校との交流をさせていただくこともできた。



この活動を実施する上での課題は、被災地との連絡調整と交通費の捻出であったが、交通費の確保では、春のPTA総会の場で保護者に被災地訪問の必要性について説明し理解していただき、PTA活動費から交通費を援助していただいた。

実際の訪問以外の活動でも「いろいろな人格と触れ合う活動」を通して、児童は、出会うことのできた人々から人間のもつよさを感じとり、「そんな考え方もあるのか」、「こんな人になれたら」、「こんな生き方もあるのか」、「こんな仕事をしてみたい」等々の自分の将来像としての「好ましい生き方」について深く考えることができた。

### 3 人権教育の充実を目指すための全校による指導体制の見直し

「全児童を全職員で育む活動」

#### (1) 縦割り活動

本校では、1年生から6年生までを縦割りグループに編成し、次のような活動を行っている。

- ①清掃活動
- ②サツマイモの栽培活動
- ③なべっこ
- ④縦割り遊び
- ⑤運動会での色別対抗と応援合戦

縦割り活動は、高学年の児童にはリーダーとしての心構えが培われ、低学年には年上の児童への信頼と尊敬の念を抱かせるきっかけになっている。また、中学年は次期リーダーとして育てていく。そのため、高学年がリーダーシップをとれるよう支援することと、低学年がリーダーとしての高学年の立場を理解できるよう配慮することが必要である。また、児童の日常生活の様子を的確に把握しておく必要がある。そのため、各担任と縦割り班担当教諭とが、班を形成する児童の情報を交換し合うことが必須である。

#### (2) 運動会の応援合戦

「応援合戦」でどんなパフォーマンスをするのかは各グループに任せられている。赤白緑の三色で争うことから23人ほどで1グループとなり、企画力だけではなく団結力も要求される。1年生でもやれる活動を取り入れつつ高学年の持ち味も遺憾なく発揮されることが期待されている。合戦としての勝利も児

童の目標となっているが、むしろ、学校の仲間だけではなく家族や地域の人々の見守る前でのパフォーマンスとなるため、各グループの熱の入り方はまた格別である。

この活動に参加する児童は、年齢の違いを克服し、みんなの力でアピールするという課題と真っ向から向き合うことになるため、「アイデアを出し合う・弱者を思いやる・協力する・努力する・リードする・従う」というような課題に、それぞれの立場で取り組むという、人権教育にふさわしい活動となっている。

これらの活動により、児童は一人一人の存在感がしっかりと保障された環境の中で、反省と課題の再発見を繰り返し、そこから達成感を味わうとともに希望に満ちた新たな一步を踏み出すことができるという成果を得ている。



＜緑組の応援アピール＞

#### 4. 実践事例の実績、実施による効果

- 児童本人と仲間、更に担任及び保護者が関わりながら活動を継続することにより、少人数という学校規模を有効に生かしながら、全校児童の情報を児童同士、また、職員及び保護者と共有し合うことができた。
- 児童のもつ将来への「夢」に関しては、より具体的なものとなっている。また、自分の「夢」を見直し、自分の成長を自ら確かめる児童に育っている
- 自分の「夢」や「がんばり目標」を公表することにより、お互いが自己に対して責任をもつ意識が強くなった。
- 自己有用感が醸成されるとともに、他者への思いやりの心が育っている。
- 担任や保護者は、児童を育むための言葉がけの機会が増えることにより、対象児童の実態に応じた、よりきめ細やかな指導がなされるようになった。保護者は、来校の際に児童の掲示物に注視し、情報を共有して「地域で育む子供」として全児童に接している。
- 多様な人々との交流を通し、あいさつや言葉遣いを含むコミュニケーション能力の向上が見られた。気持ちよく人と接しようとする姿勢や、素直に他者のよさを認める姿勢が確立されてきている。
- 地域の方々による児童に向けられる大人の視線が増えたことにより、児童はより多くの良好な人間関係を築けるようになった。
- 全児童の活動を通し、職員同士のコミュニケーションが密になった。また、職員間で交わされる会話が増え、学校課題へ職員が個々にではなくチームとして対応する環境が整った。取組の全てに貫かれる理念を共通理解し、職員同士が児童の情報を共有できる場を確立することができた。

## 5. 実践事例についての評価

社会で生きていくためには、いろいろな人々と一緒に、よりよく生きようとする資質を養わなければならない。その基本として「人権をお互いに尊重し合う」という姿は必須のものである。それは、実際に多くの人と関わり合うことで育まれていく。その意味で、現在の活動は有効であると考えている。また、今後も児童同士のみならず地域の方々、各方面の方々と接する活動を可能な限り取り入れる。

この取組が充実することで、保護者との連携が緊密なものとなった。保護者が学校に寄せる信頼は、確実に高まっている。PTA事業への参加率は、ほぼ100%であり、学習発表会には保護者だけでなく祖父母や地域住民の方々にも多く顔を出していただいている。

今後も、職員全員で全校児童を見守るという基本姿勢を堅持し、これまでの活動の成果を再確認し、目の前の児童の状況に寄り添うよう配慮しながら、取組を続けていきたいと考えている。

## 【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

### 仙北市立白岩小学校

児童が互いのよさを認め合う資質・能力を高める指導法の工夫により、各自の向上心や自己有用感を育成し、人権意識を深化させようとする事例である。「私の夢カード」（児童が自己の目標や夢等を記入）と、「ともそだち」カード（目標達成度の自己評価や他の児童からの共感や励まし等を記入）を活用するとともに、地域・家庭との連携強化を図り、児童の自己有用感の育成に効果的に取り組み、成果を上げている。東日本大震災の被災地を訪問し、当地の小学校との交流を実行し、学習の場を拡大することで人権学習の深化と充実を目指した試みは、小規模校における人権教育の展開法における新たな可能性を示唆している。